

平成28年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495100164	事業の開始年月日	平成24年2月1日
		指定年月日	平成24年2月1日
法人名	医療法人社団 誠淳会		
事業所名	グループホーム 川崎幸の家		
所在地	(212-0058) 神奈川県川崎市幸区鹿島田3丁目12番46号		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/>	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	平成28年8月20日	評価結果 市町村受理日	平成28年12月6日

基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp/wamappl/hvoka/003hvoka/hyokanri.nsf/pSearch3?Open>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所者様の尊厳を大切に、安全・快適に過ごして頂ける施設を目指します。地域との交流などに積極的に参加しています。事務所としては、認知症の理解を深めると共に、月3回ボランティアの方々の協力をお願いしています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成28年9月20日	評価機関 評価決定日	平成28年11月18日

事業所は、JR南武線平間駅から徒歩5分ほどの住宅地にあり、交通の便がよく、静かな環境です。近くには二ヶ領用水が流れており、川の両岸は利用者が日常利用している散歩道です。経営母体は医療法人社団で、主に介護老人保健施設や認知症対応型グループホームを運営しています。

<優れている点>

職員は、「自分らしく、のんびり、ゆったり」という理念を常に念頭に置いて利用者と接しています。行動を急がせることなく、できるだけ利用者が自分で行うように支援しています。職員同士の意思の疎通はスムーズで、管理者にも自由に意見を言うことができる、明るく家庭的な職場の雰囲気、離職者が少ないことも特色の一つです。外部評価の自己評価も、職員が分担して作成しています。職員のレベルアップを目的とした研修を、年間計画に基づいて実施しており、職員は交代で参加しています。本部からの通達は、毎日のミーティングや月例の職員会議で、管理者から全職員に伝え、グループで統一的なケアを心がけています。

<工夫点>

ハーモニカ、オカリナ、腹話術など多彩なボランティアが参加して利用者と交流し、グループホームの日常生活が単調にならないように工夫しています。居室のカーテン、エアコン、ベッドなどは備え付けで、利用者が身軽な状態で入居できるよう配慮しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム 川崎幸の家
ユニット名	1号館

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎日のミーティングで理念に基づき、ケアについて統一を図る為に意見交換や情報を共有している	「地域に根ざした明るいホーム。自分らしく、のんびり、ゆったり、おだやかに」という理念は、創立の際に管理者が職員全体の賛同を得て作成しています。職員は利用者のケアに理念を生かすように心がけ、また地域に貢献できるグループホームを目指しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域行事の参加・散歩や買い物などに出かけ、近隣の方と挨拶を交わなど、ボランティアの協力で地域の方と触れ合ったり、交流に努めている	開設時から町内会に加入し、法人として活動に参加しています。公民館に事業所主催で歌手を招き、地域の人々が大勢参加したこともあります。利用者、職員ともに日常的に近隣の人々とは親しく接しており、祭礼の際には神輿も立ち寄ってくれています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議などを通し、認知症の方の支援の方法や経過を報告し理解して頂けるように努めている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議にて役所、包括地域の方々と情報交換や話し合いを行いそこでの意見をサービスの向上に心がけている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しています。区役所および地域包括支援センター職員、町内会長、地域代表、民生委員、ボランティアのメンバー、事業所からは管理者、職員2名、本部の担当者が出席して現状報告を行い、出席者の意見を聞き、地域の情報を得ています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町村の担当者の方には、利用者様の暮らしぶりや実状を、定期的に報告し連携を取る様心がけている	幸区役所の高齢・障害課および保護課の担当者とは、緊密に連絡をとり、事業所の実情を伝え、区役所の要望にもできるだけ応えるようにしています。最近、隣接の川崎区役所とも連絡を取る機会があり、今後も関係を継続できるように、努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日々の申し送り等で、その日の利用者様の状態を把握し身体拘束に当たらないか理解し考えケアに取り組んでいる	身体拘束に関する講習は、本部が定期的 に実施しています。職員は交代で出席 し、講習内容について全員に報告して います。家族から利用者の拘束を依頼さ れても、事業者側の方針を説明し、身体 拘束を行わない介護について、理解して もらっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待となることを理解し学びながら日々の言葉遣いや声掛けに注意を払っている。後継人と連絡を取り合い、ケアに努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	機会有るごとに職員への説明を行っている。また、社会福祉協議会等が主催する青年後見人制度の研修に参加している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約的には管理者とケアマネージャーが利用者様ご家族に疑問点など伺い詳しく説明した上、ご納得して頂けるように努めている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族が面会へ来られた際にはコミュニケーションを取り生活に反映していける様に要望等言いやすい雰囲気作りに努めている	利用者の意思表示にはじっくりと耳を傾け、できるだけ希望に沿うように配慮しています。家族会は未結成ですが、訪問する家族とは忌憚のない意見交換を行っています。電話をかけてくる家族には実情を報告するとともに、利用者や直接話をするように取り計らっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月の職員会議で意見や提案を出し合う場を設けて情報を共有し運営に取り組んでいける様心がけている	毎日の朝礼は遅番の職員も出席するように、午前11時に開始しています。本部からの通知や事業所の予定などを伝え、職員が自由に発言する機会を作っています。月に1回の職員会議には、当日非番の職員も出勤して参加しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者は職員同士、日々の努力を把握している。チームとして助け合いながら働ける職場づくりをしている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修の情報を収集し職員育成に学べる場を確保している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	市などの講習会や事業所などと学習会や交流を持つことにより、職員の質の向上を目指している		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前に面談で生活状態を把握し、ご本人の求めている事や不安を理解し職員が本人を受け入れられる関係づくりを心掛けている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居相談時に本人や家族の要望を受け止め介護計画書に反映させている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居相談時家族や本人の状況を確認し支援の提案などをしながら柔軟に対応している			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者は人生の先輩という考えの許に普段からそういった場面の声掛けに工夫、配慮している			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日々の暮らしの中、家族に寄り添い情報共有に努めより良い関係性につないでいる			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの友人、知人等との関係性は継続的な交流ができる様働きかけている	利用者の馴染みの美容院や理容店、および商店などには、できるだけ家族にも同伴の依頼をし、関係の継続に努めています。近隣の人々とは、利用者、職員ともに親しく接しており、毎日の散歩の際には、挨拶を交しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係性についてトラブルが生じたり、お互いダメージが残らないよう、職員が調整役となり円滑になる様働きかけている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去となった利用者もたまに顔を見せてくれる人もあり、家族の方にも電話で近況を聞くなどして関係性に努めている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、その人の思い・希望・意向を聞きそれに添えるよう検討している	グループホームの特徴である一人ひとりに寄り添ったケアを目指しており、利用者の意見や意向は詳細に記録しています。日常の散歩、リビングでの塗り絵、トランプ、ゲーム、カラオケなど、利用者の好みを重視し、職員は計画表を提出しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴・ライフスタイル・価値観などの情報は家族や地域の人からも具体的な情報を得ている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの生活リズム・行動・生活面や心理面などに注目し本人の状態を全員で確認しその人全体の把握に努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人の意向や家族のアイデアを聞いたからより良く暮らしていける様話し合い反映されている	計画書はケアマネジャーが中心になって作成しています。サービス担当者会議には、管理者およびケアマネジャーのほかに毎回、4人の職員が出席し、本人や家族の意見をできるだけとりあげ、チームで作る介護計画のモニタリングを実施しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別ごとのファイルに食事、水分量、排泄等の身体的状況、暮らしの様子など記録し、職員間での情報共有とし生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	日常生活上必要な物をニーズに合わせて対応している。家族にも対応に応じて満足感を高められる様努力している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	本人が安心して暮らせるよう意見交換する場を設け、支援に関する情報交換なども共有して関係を築いている		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	事業所の協力意の他、入居前からの掛かりつけ医をそのまま受診できる様本人の希望のままに対応している	すべての利用者は、事業所の協力医により月2回内科と精神科の医師の往診で診察を受けています。異常があれば家族に連絡する体制をとっています。看護師は毎週月曜日来訪し、健康管理を行っています。歯科は家族付き添いの受診を原則としています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	体調変化などが見られた時、協力医療機関に連絡をしドクターの指示より行動する			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合協力医に診療情報提供所を書いて頂き、ホームとしても時々見舞いに行き情報を頂く			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	協力医療機関と家族への支援の話し合いを行い、利用者様の最善の方法を行う様にしている	看取りに関する指針や終末期の判断について、利用者の家族から書面で同意をもらっています。重度化については協力医も連携し、方向性を決めています。これから病院勤務経験者の数名で、看取りの準備を検討する予定をしています。		昨年来、数ヶ月で文書化に取り組んでいます。引き続き看取りの実践に向けた体制を整えていくことを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変事故対応マニュアルを備えて、職員の研修も行っている			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害を想定した訓練を定期的に行っている	今年、隣家から火災が発生し、訓練だけでなく火災を実体験しています。地域とのつながりができており、近隣からの応援で、3階から車いす利用者2名を階段で移送し、全員が施設外へ避難できています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者本人の気持ちを大切に考え、心が傷つかないように声掛けをするように努めている	利用者の気持ちを傷つけることが無いよう、言葉かけには注意をしています。利用者の大半が女性のため、トイレの声掛けは、他の利用者に聞こえないように促しています。職員の言葉遣いについても直接注意したり、会議で話し合ったりしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員側で決めた事を押し付けるような事はせず、利用者が今何を希望しているかよく話を聞く様に努めている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者一人ひとりのペースを大切にし、その日の様子を見ながら本人の希望を訪ねたり、相談しながら過ごしている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	散髪・洗髪・爪切り・洗顔等容姿の乱れがない様心がけている。また本人の生活習慣に合わせた支援ができる様努めている			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食器の片づけや、食器拭き等は利用者にも手伝って頂いている。また、食後にメニューの感想等も伺う様に心がけている。	毎日の食事がマンネリ化しないよう、具材から内容を変更することもあります。このため、食事が大きく変化するので、事前にメニューを手書きで変更しています。昼間、外出する利用者がある場合、腹持ちが良い食事に変更する配慮もしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食べる量は利用者様の意見を考慮して、その人に合わせている。水分量も毎日計っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアは、自立や介助の必要な人に合わせてケアを行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	自尊心を配慮し身体機能に応じトイレ排泄できる様、支援している。紙パンツ・パット類も本人に合わせ検討している	カルテ内の排泄チェック表で利用者の排泄パターンを把握しています。なるべくおむつを減らすように心がけ、介護度を下げる取り組みをしています。トイレの時間が長い人や、利用者によっては夜間ポータブルトイレを使うことがあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄パターンを記録し毎日のラジオ体操と水分補給の徹底を行い、便秘対策に取り組んでいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	職員が一方的に決めず利用者様のその希望を確認して入っていただいている。ゆっくり浸かったりするには順番を後に回すなど工夫もしている	入浴回数は週3回を基本として継続しています。時間も1人30分は取るように心がけています。特にイベントの風呂などは行っていませんが、入浴の回数や時間を多くして気持ち良く過ごせるよう配慮をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	就寝に向けてリズムが安定する様工夫している。その方の生活のペースを熟知したり、心地良く眠りにつける様、日中の活動に配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員が利用者様一人ひとりの服薬の状況を常に把握し、ドクターに利用者様の状況を常に説明している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者様とのコミュニケーションやレクリエーションを主とし、過ごしたりボランティアの方々と月に一回の行事を楽しむにリラックスした生活をおくっている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩に行ったり、日光浴をしたり利用者様に合わせたライフスタイルを行っている	事業所の近くには二ヶ領用水もあり、天気が良い日は毎日散歩に出かけて気分転換を図っています。徒歩で近くの店で買い物もしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の管理は施設で、外出時・お買い物の際ご本人様が支払いをする		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話や手紙は、利用者様の要望があれば職員と一緒に手助けをして希望に添えるようにしている			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	毎月季節感や月のイベント・誕生日を意識した飾りを利用者様と共に製作をし、展示するよう工夫している	リビングとキッチンがついているため利用者との距離が近く、職員とも話しやすい空間です。このため利用者が集まりトランプやパズルなど、日々楽しんでいきます。掃除は居室だけでなく、廊下なども利用者と一緒にいき、清潔な居住空間を作っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テレビの見やすさや配置を工夫し、利用者様同士がリラックスして談話や日常生活をおくれる様に努めている			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は利用者様の安全や過ごしやすさを考慮し、リラックスできる空間を作る様工夫をしている	居室のレイアウトは基本的に利用者と家族で行いますが、利用者が居室の中を歩くことも多いので、利用者の動線について、職員が安全確認の配慮をしています。位牌を置いたり、家族写真を飾ったりして、居心地の良い居室になっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者様が安全に利用して頂ける様、環境づくりに配慮し自立して工夫している			

事業所名	グループホーム 川崎幸の家
ユニット名	2号館

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域密着サービスの意義を職員全員で確認し、理念を掘り下げて職員で話し合い、ケアについて意見の統一をはかっている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	散歩に出掛け地域の人達と挨拶を交わしたり、話をしたり近隣に住む人たちと触れ合う機会が多い		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	人材育成の貢献として実習生の受け入れも積極的に行っている。認知症の勉強会を行い、地域の方々から相談を設けている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営会議で取り上げられた検討事項や、その経過を話し合い報告をしながら一つひとつを積み上げて行く様になっている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市職員州研修場所として事業所を活用してもらい、利用者の暮らしぶりやニーズを伝え、連携を深めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様を抑圧しないように家族などの納得と理解の上、一人ひとりに応じたケアを行っている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者の虐待・身体的暴力・言葉の暴力・ケアの放棄を理解し、利用者様に苦痛を与えないように努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	青年後継人制度を活用されている利用者様がおられるので、サービスの利用や入院手続きを円滑に進めていただく		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結・解約また改定の時利用者、家族などに十分説明する。また、事業所のケアに関する考え方についても納得が得られる様努める		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族には手紙や訪問時に何でも言って頂けるようにして要望や意見について職員間で話し合い、反映させている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議でテーマを決め、意見交換するなど情報を共有し取り組んでいる		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者は職員業務や悩み・人間関係を把握し向上心を持って働ける職場作りをしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修・事業所内での研修は多くの職員が事項できる様にしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	近隣の事業所同士で情報交換することでサービス向上をはかる		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用者の求めている事、不安を理解し職員が本人に受け入れられる環境作りに努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族の求めている事を理解し、こちらがどの様に対応できるか話し合っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人や家族の思い、状況を確認し、グループホームでの生活が可能か話し合う		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人の苦しみ・不安・喜びなどを知ること努め、暮らしの中で分かち合い支え合える関係作りに留意している		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日頃の状態を報告し、同じ思いで支援している事を伝える		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	いつでも面会、外出、外泊はできる様対応している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係性についての情報を職員が共有し、トラブルのない様支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居後も継続的な付き合いができる様心がけている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望を把握しどの様に暮らすことが最良なのか家族を交えて検討している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族からの情報を元にサービス向上に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者の生活リズムを把握し、個人に合わせたレクリエーションを行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の暮らしの様子や変化など、個々の記録に記載し、いつでもすべての職員が確認できるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者の要望などを家族に相談し、臨機応変にサービスに反映している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	利用者が安心して過ごせる様、地域の方・民生委員と意見交換をしている		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月二回の往診があり、本人・家族の要望に従って受診して頂く		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護師の方と日頃の健康管理や医療的な面での相談や助言を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報を医療機関に提供し、家族とも情報交換をしながら退院支援に努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	その都度の変化に応じ家族や医師と連携を取り、できる限りのケアについて話し合い支援に努めている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時対応マニュアルにより周知徹底をはかり、勉強会や話し合いを行っている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練を年二回、利用者と共にい地域の協力も町内会でお願している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとり気持ちを大切に考え、さりげないケアや言葉掛けをする様努めている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	一人ひとりの状態に合わせ言葉かけや意思表示が難しい方には、表情や反応を見て対応する様心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その日の体調に配慮し、各利用者のペースにそって過ごせる様努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その人らしいスタイルを把握し、プライドを大切にしてさり気なくお手伝いしている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	メニューは配食サービスの利用で決まっているが、好みや食べやすさを考慮しアレンジも加え楽しんで頂けるよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	配食サービスに頼り栄養バランスは考えられている。食事量や水分摂取量など確認し提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアを行っている、嚥下障害による肺炎の防止などに努めている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄のパターンにより、排泄チェック表を使用してトイレ誘導を行う		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄チェック表にてパターンを把握している。体操や散歩で体を動かしていただいたり水分補給を十分取っていただくよう努めている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	一人ひとりの希望を確認し、その人に応じた入浴を支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中の活動を促し、生活リズムを整える様努めている。穏やかで安心した時間を過ごしていただく様チームで取り組んでいる		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者の薬の処方・効能・副作用の説明をファイルし全職員に分かるように徹底している。服用時は本人に手渡し確認をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるようお願い出来る様な仕事を頼み、感謝の言葉を伝える様にしている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日は近隣などに散歩に出掛け、買い物なども利用者と一緒にいく様努めている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族の協力を得て少額のお金を持っている人もいる、事業所が管理している人も外出時に自分で払って頂ける様お金を手渡ししている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族や友人などに電話しやすい雰囲気作りに努めている。年賀状・暑中見舞いなど出す支援を欠かさず行っている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フロアの飾りつけは利用者と一緒に考えている、居室には使いやすい物品を選んで置いて頂いている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食堂・居間は一体的な作りで全てが視界に入りやすい為、利用者の圧迫感をのぞくため、寛げるスペース作りに取り組んでいる		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	それぞれの利用者の居心地の良さを配慮し写真や思いでの品々を持ち込まれ暖かい雰囲気作りに努めている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者の身体状況に合わせ手すりの増設、玄関のスロープ化を実施し物の配置に配慮している		

平成28年度

目標達成計画

事業所名 グループホーム 川崎 幸の家

作成日： 平成28年 12月 6日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		入居時と比べ、ご家族の面会が減っている。	月に一度は面会に来て頂くようにする。	請求書は郵送せず、必ず取りに来て頂く。	1 2ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月